

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 27 年度 第 1 回 相模原市経営評価委員会				
事務局 (担当課)		経営監理課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 4 0 (直通)				
開催日時		平成 27 年 5 月 2 1 日 (木) 1 8 時 0 0 分 ~ 1 9 時 4 0 分				
開催場所		相模原市役所 第 1 特別会議室				
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)				
	その他					
	事務局	6 人 (企画部長 他 5 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		( 1 ) 事務事業評価の実施方法について				
		( 2 ) その他				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

### 1 傍聴者確認

### 2 議事

#### ( 1 ) 事務事業評価の実施方法について

事務局から昨年度までの事務事業評価方法及び平成27年度以降の事務事業評価の実施方法案の説明を行い、質疑等を行った。

#### ( 2 ) その他

(以下、質疑応答・意見交換 は委員の発言、 は事務局の発言)

#### ( 1 ) 事務事業評価の実施方法について

事務事業評価の対象事業を抽出するための資料となる「チェックシート1」は誰が作成するのか。また、経営評価委員会ではどの点に対し審議評価するのか。

「チェックシート1」は、PPP活用指針に基づく事業実施手法の見直し対象基準により各局区において対象事業を選定し、事業実施担当課が作成している。この見直しの中で対象となった事業から評価対象事業を抽出し、各局区の評価会議において1次評価を行う。経営評価委員会では、各局区の評価会議が行った評価に対して審議評価をしていただくことを想定している。また、現行実施手法から変更する事業のみでなく、変更しない事業についても評価していただくことも考えている。経営評価委員会での評価の対象となる事業数は、何件程度を想定しているのか。また、見直しの対象事業は各局区で選ぶとのことだが、対象事業の選択に恣意性が生じる恐れはないか。

十数件程度を想定している。見直しの対象事業の選択に当たっては、各局区の総務室等と経営監理課との間で調整する。チェックシートの作成を行った事業については、一覧にして経営評価委員会へ報告したい。

また、評価対象事業については、事務局案として対象とすべき事業を抽出し、経営評価委員会に諮っていきたい。

前年度までの評価方法に対する課題への対応状況はどのようになっているのか。総合計画の進行管理と一体的な事務事業評価については、総合計画審議会と審議事項が重複する部分があったため、総合計画の施策を構成する主な事業の評価は、総合計画審議会に委ね、事務事業評価は、事務改善を行えるような小規模な事業についてもできるようにしていく。

事業実施手法の見直し対象事業の選定基準に、指定管理者制度の導入していない施設の業務が対象となっているが、指定管理者制度を導入している施設についても見

直すべき箇所があるのではないか。

指定管理者制度について、指定期間の適正性、雇用の問題等の課題があることは承知している。しかし、事業に対する評価ではなく制度に対する評価の側面が強いため、別に検討している。

事務事業評価の視点の中で、年度別のテーマとして必要性の項目があるが、この項目は事業の存続にもかかる視点のため、評価が難しいのではないか。

必要性の視点は例示として挙げさせていただいた。必要性の視点については民間が実施してもよいのではないかとといった観点からの評価を想定しているが、テーマの抽出を含めて経営評価委員会へ諮る予定であるので、必要性の視点が必須なわけではない。

評価を行う際に、各事業の具体的な部分が不明確なままでは判断がしにくい。手法の変更により、どのように事業が変化するのが分かる資料や手法に対する市としての1次的な評価資料を併せてお願いしたい。

評価の視点に市民満足度の向上があるが、各事業に対する市民から意見・要望・苦情等を吸い上げる手段はあるのか。

わたしの提案制度やインターネットを通して各所管課へ意見を伝える制度が運用されており、その制度を基に所管課が意見等を把握し対応を行っている。

市役所前駐車場の管理など手法の変更を行った事業について、その成果・効果について市民が知る機会がほしい。

成果・効果の情報開示は重要であると考えている。事業所管課にもこういった意見があったことを伝えたい。

利用料金の納付方法等、事業単位の評価では反映しきれない部分があると思うが、その点について市の考えを伺う。

評価シート上では反映しきれない部分については、付帯意見や自由意見として反映させていきたい。また、付帯意見等を同種の事業に展開させられるよう、フォローアップを図っていきたい。

「PPP活用指針」は、指針を初めて見る委員にとっては非常に難解であると思う。必要に応じて、指針を補足する資料や説明が必要なのではないか。

基礎的な説明を丁寧にしていく中で、十分な審議をしていただける環境を整えていけるよう努めていきたい。

PFIにおけるサービス提供型と独立採算型のように、事業形態内にいくつかの選択肢が残されている場合、チェックシートだけでは有効な事業形態が絞りきれないのではないか。

チェックシートはあくまでも形式的な評価なので、導き出された評価をよく検証する必要があると考えている。そのため、チェックシートは、既存の事業形態と比べより有効な形態がある可能性の有無を判断するものとして捉えていただきたい。

経営評価委員会で評価を実施した事業について、評価の結果としてどのようになったのかを知る機会が必要だと考えている。

経営評価委員会では、何を評価するのか。

「事務事業評価シート」には、市民満足度の向上等の実施手法に対する評価の視点が挙げられているが、各視点に基づく評価の妥当性の検証などを行っていただく予定である。

(その他意見)

弁護士等への市民相談の拡充を、市の事業として進めていただきたい。

2025年に団塊の世代がすべて後期高齢者となり、老人医療の費用が増加することが予想される。今後の10年間で、医療費の増加率が上昇しないよう施策を進めていただきたい。

### 相模原市経営評価委員会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	山口 由紀子	相模女子大学人間社会学部教授	委員長	出席
2	田所 昌訓	相模原市自治会連合会会長	副委員長	出席
3	川崎 一泰	東洋大学経済学部教授		出席
4	出雲 明子	東海大学政治経済学部准教授		出席
5	霧生 卓	公認会計士		出席
6	長谷川 光明	相模原商工会議所青年部会長		出席
7	西村 初代	公募委員		出席
8	芳賀 貞江	公募委員		出席
9	安田 隆春	公募委員		出席
10	大島 浩之	公募委員		欠席